

人・家庭報「せんげん」が家族のきずな

浅間克也さん一家(善久)

「せんげん」という新聞を読んだことがありますか。ない、でしょ。善久の浅間さん一家を除いては。せんげんは家庭報なのです。大きさはB5版(広報より一回り小さい)で七ページから十四

ページ。毎週一回発行されます。発行部数は七部。記者は七人、読者も七人です。

その七人を紹介します。編集長はご主人の浅間克也さん(48歳)。職業は一级建築士であります。原

さん(74歳)と三人の子供たち、長女の京さん(20歳)、長男の智人さん(18歳)、次男の学君(14歳)です。それから、近所に住む千枝さん(17歳)、母小泉トシさん。

せんげんは昭和五十八年二月二十八日に創刊されました。「一週間に一つぐらいは何か感じたことや思いついたことがあるはず、それを文章にして家族に発表するだけ、できないはずはない」と克也さん。一人が原稿用紙一枚(四百字)を毎週必ず書くこと、内容は自由。これだけがつまりです。今年の一月には「二百号を迎えます。」と原稿出せ、出せ」と言つていただけと克也編集長。「やめたいけど」と言いながらあつという間

のアメリカ留学を連載中。ときどき欲しいものを書いている学君。シゲさんは趣味の俳句や昔の思い出など。寝る前は必ず読むそうで、お母さんの千枝さんは「読み返すと子供の成長がわかります。たまに小言を書いたりします」。せんげんは月曜日の夕ごはんのとき配られます。みんなは何を書いているのか、一瞬緊張した後は笑い声。クイズがあつたり、小説、イラスト…。食卓の話題には事欠きません。克也さんは「無言のコミュニケーションになっています」。

克也さんは「老後の大事

に書く京さん。智人さんは一年間のアメリカ留学を連載中。ときどき欲しいものを書いている学君。

今年は卯年、うさぎ年です。うさぎと言えば「うさぎとかめ」のイング童話を思い出します。子供のころこの話を聞かされて、なぜうさぎは昼夜したのだろうか疑問でした。本には理由が書いてないんですね。生物の本にはうさぎには大脳のしがほとんどなくて全く考えるといふことをしないと書いてあります。だからサーカスに象や馬はいてもうぎではないわけです。でも、なぜ昼夜したの

でしょうか。うさぎ小屋とヨーロッパから言われる家に住む我々には昼夜の時間などありません。それに最近の日本人はあまり考えなくなってきたのではないか、そんな気配があります。うさぎ小屋でも狭いながらも楽しい我が家ならいいんでしょうか。いいんでしょ。うかね。今年は国際居住年なんですって。さて、昼夜の理由は何でしょう。考えてみてください。

ます。ものすごい大きくなっています」。千枝さんは「老後の大事な財産ができました」。

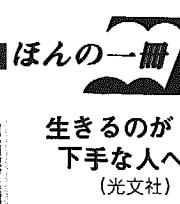
浅間さん一家はせんげんで強く結ばれているようです。なお、紙名の由来は、千言、泉言、そして浅間はせんげんと読めることからだそうです。(五十嵐広報担当記)

●今月号の表紙

毎年「1月号」だけカラーワ 写真にするのであるが、今年度の出来はどうでしょうか。今年度の出来はどうでしょうか。今年度の抱負は次号以降で紹介していくかと思います。連絡下さい。

●来月号の表紙

「1月号」をテーマにします。雪対策、雪の利用方法、雪の遊び、雪に関するものなどなどでもけつこうです。ご意見をお寄せください。



生きるのが下手な人へ
(光文社)

紀野一義

タイトルからすれば、上手なことを教えてくれる

浅間さん一家。右からご主人の克也さん、おばあちゃんのシゲさん、長男の智人さん、お母さんの千枝さん。せんげんはある程度たまると知人から製本してもらうそうです。発行し続けてもうすぐまる四年。ページをめくれば家族の顔が浮かんできます

本の中を生きていくことを教えてくれる本と思われるかもしれません。むしろ、下手といわれるうらやましいけれども、自分の信ずる所生きぬいた人々を書いた本です。

放浪の俳人山頭火をはじめとして、会津八一、高村光太郎などの鮮烈な生き方を紹介されています。世渡りがうまくいく成功者として名をあげても、人の価値尺度はそれ違っているのですから。こんな生き方をした人もあるんだと教えてくれる一冊です。(紹介者:鹿島葉子)

〈人の動き〉

11月末日現在(前月比)

[同年比]

人口 22,442 (+28) [+ 283]

男 11,041 (+21) [+ 175]

女 11,401 (+7) [+ 108]

世帯 5,855 (+11) [+ 113]

11月1日~末日

出生

婚姻

死亡

17

転入

16

転出

58

79

58

10

10

新潟県
黒埼町

